台大日本語文研究第 10 期
2005 年 12 月，頁 107～140

三·四級語彙表的分類模式探討

趙順文 *

摘要

本文主要參考『分類語彙表』的研究成果，透過『類語大辞典』的分類模式，探討日語能力測驗三、四級語彙表的語意分類。結果顯示『類語大辞典』在範疇劃分、詞條項目以及品詞上有必要更進一步地加以修正、釐清、補充的瑕疵外，整體而言以動詞、形容詞爲核心的句型描述架構，讓人耳目一新。

基本句型描述應該包括必須成分的主語、賓語，已爲熟知。但除此之外，有些隨意成分在句法上雖充當補語，但在語用、語意的因素考量下，也必須加以描述更符合語言的使用原則。本文在此原則下分析三、四級語彙，提供日語教學與日語研究上的參考。

關鍵詞：『類語大辭典』、『分類語彙表』、三四級語彙表、基本句型

* 國立台灣大學日本語文學系教授

A Study of the Classified Vocabulary Used in Level3 and Level4

TIO Sun-bun *

Abstract

This paper aims to analyze the semantic categorizations among those vocabulary used in level 3 and level 4 Japanese proficiency exams, based on the findings of *The Classified Vocabulary List* and *Thesaurus Dictionary*. Our results show that there is the necessity of revising the categories, keywords and parts of speech in *Thesaurus Dictionary*. In order to rectify this inadequacy, we propose a new approach by using verbs and adjectives as the core of sentence pattern.

It is well-known that those necessary elements, such as subject and object, should be mentioned in order to define basic sentence patterns. Besides that, we argue some arbitrary elements should also be taken into consideration to achieve the pragmatic adequacy although they usually play the modifying role in sentence structure. We believe this paper provides a good material for Japanese teaching, learning and further studies.

Key words:Theasaurus Dictionary, The Classified Vocabulary List, The List of Level3 and Level4 Japanese Proficiency Exams,Basic Sentence

* Professor of the Department of Japanese Language and Literature, National Taiwan University

三・四級語彙表のシソーラスの考察

趙順文 *

要旨

本稿では『類語大辞典』を参考にして、日本語教育上のもっとも基礎的な三・四語彙表のシソーラスを考察してきた。結論的に言えば、カテゴリーの作り方、見出し語の修正、品詞論の検討など様々の問題が存在している以上、『分類語彙表』に関する従来の研究成果を基に、その解決を図らなければならない。とはいえ、必須成分である名詞が用言にかかるという従来の基本文型を中心とした記述に関する研究書は珍しくないが、必須成分にとどまらず、形容動詞・名詞・副詞ないしその他の品詞などを全面的に考慮に入れた随意成分が動詞か形容詞かのいずれかにかかるというカテゴリーの作り方には類書にない特徴が見られよう。本稿のような研究は日本語の文型教育ないし語彙教育に寄与するなら、何よりである。

キーワード：『類語大辞典』、『分類語彙表』、三·四級語彙表、基本文型

* 台湾大学日本語文学系教授

三・四語彙表のシソーラスの考察

趙順文

１．はじめに

シソーラスに基づく語彙に関する一連の研究としては、田島毓堂を中心とした研究グループがあげられることが多い。その拠って立つところは、品詞と意味を分類基準とした『分類語彙表』[1]（1964）にあると言ってよかろう。一方、同じく品詞と意味を分類基準とした『類語大辞典』（2002）というシソーラスも注目されている。本稿では『類語大辞典』を踏まえながら、日本語教育上の三・四級語彙表の分類問題を考察することを目的とする。

２．先行研究と問題点

田島(1999)の理論に則って、『分類語彙表』に含まれる32600語の個々の語のコード付けに対する新しい意味付けが今までに様々な方向に展開されており、これによる今後の研究成果が大いに期待される。特にシソーラスを作るうえで、従来とかく看過されてしまう助詞のコード付けに関する研究には興味深いものがある。しかし、外国人の日本語能力を評価するときに使われる『日本語能力出題基準―改訂版』（2002）に出る語彙に関する全般的な考察がいまだになされていないのが現状であることも否めない。一方、30万語を収録した『日本語語彙体系』（1997）では動詞、形容詞、形容動詞を中心とした文型記述[2]が緻密になされており、このタイプの研究とし

---

[1] 語数32600語から一挙に96000語に増えた『分類語彙表―増補改訂版』が2004年に出版された。

[2] 例えば動詞「挙げる」に関する文型(1)は「23 身体動作（動作）N1がN2を挙げる：N1 celebrate N2 [N1(3主体) N2(1223式・行事等)]、文型(2)は「23 身体動作（動作）N1がN2を挙げる：N1 raise N1's N2 [N1(4人) N2(“杯”533頭部590手・足]というように、49項目にわたる精密な文型記述がなされる。

ては高く評価されることができよう。とはいえ、これが直ちに日本語文型・語彙教育の現場において有効に活用されるのかというと、必ずしもそうではない二つの難点が存在している。一つは、動詞、形容詞、形容動詞などの用言にかかる名詞クラスにの意味範疇が独自の体系をなしており、意外と煩雑であること、もう一つには、名詞と用言との関係が有機的に結びつくように体系的に組み立てられていないことがあげられる。例えば「机」と「テーブル」は同じ意味範疇の名詞クラスに属するが、前者は「勉強する」、後者は「食べる」というように、それぞれ異なる意味範疇の動詞クラスにかかわっている。[3]

3. 記述と分析

さらに、上述の『日本語語彙体系』の難点を解消するのが79000語を収録した『類語大辞典』であろう。この辞書では動詞2300語と形容詞400語からなる基本語2700語の意味によって、日本語を100の「カテゴリー」と1450の「小分類」に分け、さらに各「小分類」を「動詞の類」「形容詞の類」「形容動詞の類」「副詞の類」「名詞の類：コト・サマ」「名詞の類：モノ」「名詞の類：イキモノ」「名詞の類：ヒト」「名詞の類：トコロ」「名詞の類：トキ」「その他」の11種類の「品詞」に下位分類した上で、各「品詞」に意味・用法の近い語を配列している。用言を中心とした文型記述の重要性は、結合価文法で久しく主張を繰り返してきたことであるが、記述にあたっては一貫して用言にかかる必須成分のみに焦点が置かれているという欠点が見られる。つまり、現実における言葉の運用上、必須成分ばかりでなく、随意成分も十分考慮に入れる必要があると思われる。例えば「食べる」を使う上で、それ

[3] 生成語彙意味論によれば、これら異なる意味範疇に属する動詞クラスは、それぞれ当該名詞の「目的クオリア」(telic qualia)として登記されてある。

にかかる「レストラン」「食堂」などのフレーム知識に属する随意成分のトコロ名詞は、動詞［食べる］の運用上の背景的知識として常に脳裏を駆け巡るに違いなく、そういう意味では必須成分に劣らず重要なものと考えられる。この点に関して、『類語大辞典』では「教える」にかかる随意成分のトコロ名詞である「大学」「学校」「教室」などの記述に対して行き届いた配慮が施されている。つまり、動詞、形容詞、形容動詞を中心とした従来の文型記述だけでは掬いきれない語彙情報として、必須成分にはより具体的な要素、そして、随意成分にはより運用的な要素が盛り込まれ、それらによって生きた言葉の本質的な部分が構築されているこの辞典は私見ではほかのシソーラスないし文型辞典の欠点をきっちりと補う形で文型教育ないし語彙教育の現場において大いに活用される価値がある。以下ではこの辞典の分類基準に基づいて、三、四級語彙表を記述・分析し、かつその問題点を考察する。

３．１　意味による 100 のカテゴリー一覧表 4

この辞典では動詞 2300 語と形容詞 400 語からなる基本語 2700 語の意味によって日本語を次のような 100 のカテゴリーに分けている。

この 100 のカテゴリーはより抽象的に 00～05 は「からだ」、06～18 は「こころ」、19～41 は「ひと」、42～54 は「ひと・もの」、55～87 は「もの」、88～99 は「すべて」に大きく分けられている一方、さらにより具体的に各カテゴリーごとに小分類の記述がなされているのは上述の通りである。例えば、カテゴリー00「生きる・死ぬ」に属する小分類は、「0000 生きる」「0001 助かる」「0002 生かす」「0003 暮らす」「0004 助ける」「0005 死ぬ」「0006 枯れる」「0007 殺す」「0008 枯らす」などである。実際、動詞と形容詞にかかる必須成分にせよ随

4　この一覧表は本書の「カテゴリー一覧」を並べ替えたものである。

意成分にせよ、具体的に文型記述がなされるのはこの 1450 の小分類あってのことである。後述のように、四級語彙表の分類にあたって、一つ一つの名詞・副詞ないしその他の品詞は、いずれも 1450 の小分類の一つである具体的動詞・形容詞を必要としている。なお形容動詞は小分類の下位分類として位置づけられている。これは形容動詞が主に名詞ないし形容詞を元にして作られることによるのであろう。ちなみに、動詞と形容詞に基づく本書のカテゴリー一覧では「生きる・死ぬ」は「生死」、「生む・育てる」は「生育」、「やさしい・むごい」は「気質・態度」、「古い・新しい」は「新古・老若」というように、いずれも名詞の概念に置き換えられている。

注意すべきは、違う意味・用法を持つ「多義語」と同じ意味・用法の語が複数のカテゴリーに重出するのが常であるという点である。例えば、「買う」は「評する」と「こうむる」と「買う」にあり、「音楽」は「作る」と「鳴らす」にある。したがって、文型記述はどのカテゴリーを選ぶかによって左右されるわけである。

００からだ

生きる・死ぬ

０１　０２　０３

生む・育てる　眠る・覚める　食べる・飲む

０４　０５　０６こころ

見る・聞く　感じる　愛する・好む

０７　０８　０９

望む・欲する　喜ぶ・楽しむ　悲しむ・泣く

１０　２０　３０

悔やむ・惜しむ　契る・取り決める　やさしい・むごい

１１　１２　１３　２１　２２　２３　３１　３２　３３

苦しむ　困る・恥じる　嫌う・憎む　示す・教える　記す・表す　構える・向く　急ぐ・勇む　遊ぶ　いばる

１４　１５　１６　２４　２５　２６　３４　３５　３６

驚く　思う　調べる・数える　立つ・居る　歩く・走る　通る　敬う　頼む・促す　だます

１７　１８　１９ひと　２７　２８　２９　３７　３８　３９

決める　知る　言う　行く・来る　会う・交わる　ふるまう　争う　攻める　責める

４０　５０　６０

構う・慰める　倒す・倒れる　取る・抜く

４１　人・物　４３　５１　５２　５３　６１　６２　６３

従う　与える　する・なる　振る・振れる　つかむ　持つ・になう　取れる　移す　置く

４４　４５　４６　５４　もの　５６　６４　６５　６６

携わる　探す・ねらう　得る・奪う　使う・操る　及ぶ・届く　入れる・入る　まとめる　分ける　乱れる

４７　４８　４９　５７　５８　５９　６７　６８　６９

やめる　止まる　動く・動かす　出る・出す　当たる・触る　付く　なおす　作る　壊す

７０　８０　９０

切る・切れる　少ない　始まる・続く・終わる

７１　７２　７３　８１　８２　８３　９１　９２　９３

ゆがむ　変える　強い・弱い　近い・遠い　清い・汚い　染める　基づく　合う　異なる

７４　７５　７６　８４　８５　８６　９４　９５　９６

かたい　大きい　小さい　かわく　暖まる　燃える　良い　悪い　ある

７７　７８　７９　８７　すべて　８９　９７　９８　９９

長い　高い　多い　光る・鳴る　古い・新しい　はやい　現れる　ない　その他

３．２　三・四級語彙表の分類と問題点

上述の 100 のカテゴリーに基づいて３・４級語彙表を分類

する際に、いくつかの問題がある。第一に、カテゴリーの内容を再論する。例えば、「三つ」「四つ」「五つ」などが「数える」の一つのカテゴリーだけに属するのに対し、「一つ」「二つ」は「数える」と「ひとつ・ふたつ」との二つのカテゴリーに重出している。この矛盾をどう解釈するかは不明である、また、「傘」は「さえぎる」、「冷蔵庫」は「続ける」、そして「車」は「回す」のカテゴリーに属すると記述されているが。その理由については何らの説明もなされていない。これは、むしろある特定の社会文化の中で独自の意義をもった要素を取り入れ、「傘」は「雨」と同じく「降る」、「冷蔵庫」は「料理」と同じく「作る」、「車」は「自動車」と同じく「乗る」のカテゴリーに入れたほうがよいのではなかろうか。さもなければ、「傘」は「さす」、「冷蔵庫」は「入れる」、「車」は「動く」のカテゴリーに属させるのも一つの方法であろう。ちなみに、「電気」は「ともす」に属すると記述されているが、「0103a10 / 2101a02 / 2200a24 / 4503a18 / 5808a00 / 5903a00 / 6301a06」と七つのカテゴリーに重出している多義語「つける」のカテゴリーの一つに取り替えられると、かえって分かりやすいのではないかろうか。また、この辞書では、「音楽」は「作る」「鳴らす」、「ギター」は「鳴らす」のカテゴリーに属しているが、実際のコーパスで検索してみると、「音楽」は「聞く」、「ギター」は「ひく」にかかることが多いように思われる。さらに、「庭」は「楽しむ」に属しているが、地域と文化によっては人の庭は「人が涼みを取って楽しむ場所」のほかに、「穀物を干す平らな空き地」や「犬などを飼うところ」などのイメージが思い浮かべられることもあろう。言い換えれば、語彙の意味こともあるカテゴリーは単なる語彙的内容による分類だけではなく、百科全書的な意味内容にも触れなければならないこともあるのである。

第二に、本書の見出し語について修正する。「そうして」「そ

れから」「～方（かた）」などはその見出し語が記述されているのに、四級語彙では「お～」「～か月」「～月（がっ）」「～さん」「～時（じ）」「じゃ」「～中（じゅう）」「～人（じん）」「～すぎ」「～ずつ」「それでは」「～だけ」「では」「でも」「ながら」「初めに～」など、そして三級語彙では「～員」「～おき」「お子さん」「～終わる」「～家」「～君」「けれど/けれども」「御～」「～すぎる」「～だす」「～建て」「一月（ひとつき）」「～にくい」「～ばかり」「または」「～まま」「～やすい」などに、接頭語、接尾語、補助動詞、接続詞、接続助詞などの見出し語がついていない上に、「今週」「今月」「来週」「来月」が含まれいるのに、「先週」「先月」が抜けている。さらに、「二十/二十歳（はたち）」も本書にはさえ見あたらない。このほか、漢字語動名詞「練習」と外来語動名詞「コピー」などは、『分類語彙表』に倣って「練習」「練習する」、「コピー」「コピーする」のように名詞と動詞の両方との見出し語が立てられることが望ましいと思われる。

第三に、品詞論について検討する。従来の学校文法における品詞論で感動詞に相当する「ああ」「さあ」「じゃあ」などは、それぞれ「うなずく」「ほのめかす」「別れる」のカテゴリーに属すると思われる。また、「～ながら」などの接続助詞と動詞の意味カテゴリーの間の相関関係には一切触れていないが、「そうして」は「並べる」のように［並立］を、「それから」は「加える」のように［付加］を表すように、この接続詞も「する」のように「並行（動作）」を表わすものと解することもできよう。

第四に、本書では文型の問題を取り上げたが、『新明解国語辞典第五版』のように、基本語として選定した動詞・形容詞に関する文型を記述する必要があると思われる。なぜなら、基本語の動詞・形容詞は多くの場合、多義語と位置づけられているので、文型記述を通してその属性をいっそう浮き彫りにさせる必要がある。また、この辞典では、形容動詞を基本

語からはずすという編集方針を取っているが、文型に関しては形容動詞も動詞・形容詞と同様に、用言や述語として機能しているので、小稿では、形容動詞も文型を付け加えることにした。

上述の問題点を抱え、『類語大辞典』を参考にて作制した三・四級語彙表のシソーラスは次の通りである。

【100分類のシソーラス】

００からだ

生きる・死ぬ

０１ 生む・育てる　０２ 眠る・覚める　０３ 食べる・飲む

０４ 見る・聞く　０５ 感じる　０６こころ 愛する・好む

０７ 望む・欲する　０８ 喜ぶ・楽しむ　０９ 悲しむ・泣く

---

１０ 悔やむ・惜しむ

１１ 苦しむ　１２ 困る・恥じる　１３ 嫌う・憎む

１４ 驚く　１５ 思う　１６ 調べる・数える

１７ 決める　１８ 知る　１９ひと 言う

２０ 契る・取り決める

２１ 示す・教える　２２ 記す・表す　２３ 構える・向く

２４ 立つ・居る　２５ 歩く・走る　２６ 通る

２７ 行く・来る　２８ 会う・交わる　２９ ふるまう

３０ やさしい・むごい

３１ 急ぐ・勇む　３２ 遊ぶ　３３ いばる

３４ 敬う　３５ 頼む・促す　３６ だます

３７ 争う　３８ 攻める　３９ 責める

---

４０ 構う・慰める

４１ 従う　４２ 人・物 与える　４３ する・なる

４４ 携わる　４５ 探す・ねらう　４６ 得る・奪う

４７ やめる　４８ 止まる　４９ 動く・動かす

５０ 倒す・倒れる

５１ 振る・振れる　５２ つかむ　５３ 持つ・になう

５４ 使う・操る　５５ もの 及ぶ・届く　５６ 入れる・入る

５７ 出る・出す　５８ 当たる・触る　５９ 付く

６０ 取る・抜く

６１ 取れる　６２ 移す　６３ 置く

６４ まとめる　６５ 分ける　６６ 乱れる

６７ なおす　６８ 作る　６９ 壊す

---

７０ 切る・切れる

７１ ゆがむ　７２ 変える　７３ 強い・弱い

７４ かたい　７５ 大きい　７６ 小さい

７７ 長い　７８ 高い　７９ 多い

８０ 少ない

８１ 近い・遠い　８２ 清い・汚い　８３ 染める

８４ かわく　８５ 暖まる　８６ 燃える

８７ 光る・鳴る　８８ すべて 古い・新しい　８９ はやい

９０ 始まる・続く・終わる

９１ 基づく　９２ 合う　９３ 異なる

９４ 良い　９５ 悪い　９６ ある

９７ 現れる　９８ ない　９９ その他

【三・四級語彙表】

00 生きる・死ぬ（生死）

四：[Ｎ$_1$が死ぬ][Ｎ$_1$が元気だ][Ｎ$_1$が病気だ][人][動物][家庭][家族]

三：[Ｎ$_1$が生きる] [Ｎ$_1$がなくなる] [Ｎ$_1$が安全だ] [生活] [気] [虫] [代] [社会] [世界]

01 生む・育てる（生育）

四：[Ｎ$_1$が生まれる][Ｎ$_1$が咲く][父][母][おじ][おば][お父さん][お母さん][おじ [おばさん][おじいさん][おばあさん][両親][男][女][大人][子供][男の子][女　の子][卵][ペット][犬][猫][兄][弟][姉][妹][お兄さん][お姉さん][弟さん][妹さん][誕生日][国][木][花]

三：[Ｎ$_1$がＮ$_2$を育てる] [男性][女性][子][お子さん][息子][息子さん] [娘] [娘　さん] [パパ] [祖父] [祖母] [動物園][赤ちゃん][赤ん坊][お嬢さん][田舎][枝] [葉][毛][髪] [髭][草][森] [林]

02 眠る・覚める（睡眠）

四：[Ｎ$_1$が寝る][Ｎ$_1$が起きる][ベッド]

三：[Ｎ$_1$が眠る] [Ｎ$_1$が眠い] [寝坊] [布団]

03 食べる・飲む（飲食）

四：[Ｎ$_1$がＮ$_2$を食べる][Ｎ$_1$がＮ$_2$を飲む][Ｎ$_1$がＮ$_2$を吸う][Ｎ$_1$がおいしい][Ｎ$_1$がまずい][Ｎ$_1$が甘い][Ｎ$_1$が辛い][食べ物][肉][豚肉][牛肉][鳥肉][魚][御飯][朝御飯][昼御飯][晩御飯][晩御飯][夕飯][お弁当][カレー][野菜][果物][パン][バター][お菓子][飴][口][歯][茶碗][箸][スプーン][ナイフ][フォーク][お皿][テーブル][食堂][レストラン][飲み物][水][お酒][牛乳][お茶][紅茶]

［コーヒー］［カップ］［コップ］［喫茶店］［煙草］［砂糖］［塩］［醤油］

三：［N_1がN_2を召し上がる］［N_1がN_2を噛む］［N_1がうまい］［N_1が苦い］［食事］［米］［サンドイッチ］［ハンバーグ］［サラダ］［湯］［アルコール］［味］［ジャム］［味噌］［ケーキ］

04 見る・聞く（視聴覚）

四：［N_1がN_2を見る］［N_1がN_2を聞く］［N_1が賑やかだ］［N_1が静かだ］［顔］［目］［眼鏡］［デープレコーダー］［ラジオ］［ラジカセ］［レコード］［音楽］［声］［耳］

三：［N_1がN_2を拝見する］［N_1がN_2をご覧になる］［N_1にN_2が見える］［N_1にN_2が聞こえる］［見物］［夢］［花見］［景色］［はっきり］［ステレオ］［音］

05 感じる（感覚・感情）

四：［N_1が痛い］［N_1が疲れる］［おなか］［鼻］

三：［臭い・匂い］［気持ち］［気分］

06 愛する・好む（愛情・愛好）

四：［N_1が可愛い］［N_1がN_2が好きだ］［N_1がN_2が大好きだ］

三：［趣味］

07 望む・欲する（欲望）

四：［N_1がN_2が欲しい］

三：［是非］

08 喜ぶ・楽しむ（歓喜）

四：［N_1がN_2に楽しい］［庭］

三：［N_1がN_2を喜ぶ］［N_1がN_2を楽しむ］［N_1がN_2を笑う］［N

$_1$が嬉しい］［N_1が可笑しい］［お祝い］［楽しみ］

09 悲しむ・泣く（悲痛） [5]

三：［N_1が泣く］［N_1が悲しい］［N_1が寂しい］

10 悔やむ・惜しむ（後悔・哀惜）

三：［N_1が残念だ］

11 苦しむ（苦悩）

四：［N_1がうるさい］

三：［N_1がN_2を苛める］

12 困る・恥じる（困苦・恥辱）

四：［N_1がN_2に困る］

三：［N_1が恥ずかしい］

13 嫌う・憎む（嫌悪）

四：［N_1がN_2が嫌いだ］［N_1がN_2がいやだ］

三：［N_1が怒る］

14 驚く（驚嘆・恐怖）

三：［N_1がN_2にびっくりする］［N_1が驚く］［N_1が怖い・恐い］「おや」

15 思う（思考）

四：［N_1が有名だ］［頭］［そう］［多分］［どうも］［どうも］

三：［N_1がN_2を思う］［N_1がN_2を思い出す］［N_1がN_2を心配する］［N_1がN_2を考える］［N_1がN_2と比べる］［N_1がN_2を間違える］［積もり］［気］［心］［やはり/やっぱり］

[5] 三級語彙か四級語彙かのいずれかに属する場合がある。

［計画］［意見］［もし］［きっと］［必ず］［例えば］［割合］［割合に］

16 調べる・数える（調査・確認）

四：［辞書］［字引］［時間］［時計］［零］［ゼロ］［一］［二］［三］［四］［五］［六］［七］［八］［九きゅう］［九く］［十］［十二］［十三］［二十］［三十］［百］［千］［万］［一つ］［二つ］［三つ］［四つ］［五つ］［六つ］［七つ］［八つ］［九つ］［十］［いくつ］［いくら］［くらい/ぐらい］［キロ/キログラム/キロメートル］［キログラム］［グラム］［メートル］［個］［冊］［歳］［二十歳］［度］［台］［人］［杯］［番］［番号］［匹］［分］［ページ］［本］［半］［円］［回］［枚］［テスト］

三：［N_1がN_2を調べる］［N_1が確かだ］［N_1がN_2をチェックする］［辞典］［ほど］［～時］［億］［人口］［コンピューター］［レジ］［パソコン］「試験」［～点］［～軒］［～倍］［～目］

17 決める（選定・決定）

三：［N_1がN_2を決める］［N_1がN_2を選ぶ］［N_1が決まる］［予定］［決して］［規則］［文法］

18 知る（識別・分別）

四：［N_1がN_2を知る］［N_1がN_2を読む］［N_1がN_2を勉強する］［N_1がN_2を練習する］［N_1がN_2にN_3を習う］［N_1がN_2を覚える］［N_1がN_2にN_3を忘れる］［N_1にN_2が分かる］［N_1にN_2ができる］［N_1が難しい］［N_1が易しい］［学生］［生徒］［雑誌］［留学生］［新聞］［宿題］［問題］

三：［N_1がN_2をご存じだ］［N_1がN_2を見付ける］［N_1が見付かる］［N_1が簡単だ］［研究］［承知］［経験］［数学］［科学］［医学］［高校生］「大学生」［予習］［復習］［忘れ物］

［勿論］［なるほど］「技術」

19 言う（言語）

四：［N_1がN_2をN_3と言う］［N_1がN_2に/へとN_3話す］［N_1が/からN2を/についてN3に/へ/と 話す］［N_1がN_2を歌う］［N_1がN_2を呼ぶ］［N_1がN_2にN_3を質問する］［N_1が鳴く］［言葉］［～語］［名前］［歌］［さあ］［話］［英語］［電話］［もしもし］［どうして］［なぜ］［どう］［いかが］［じゃ］［では］［それでは］

三：［N_1がN_2とおっしゃる］［N_1がN_2と申す］［N_1がN_2と申し上げる］［N_1がN_2にN_3を伝える］［N_1がN_2にN_3を伺う］［発音］［相談］［挨拶］［会話］「会議室」

20 契る・取り決める（約束・交渉）

三：［N_1がN_2と約束する］［N_1がN_2を予約する］

21 示す・教える（教示・広報）

四：［N_1がN_2にN_3を見せる］［N_1がN_2にN_3を教える］［先生］［大学］［学校］［教室］［図書館］［ニュース］［授業］

三：［N_1がN_2を知らせる］「N_1がN_2にN_3を説明する」［展覧会］［美術館］［講義］［教育］［テキスト］［レポート］［校長］［小学校］［中学校］［高等学校］［高校］［学部］［紹介］［連絡］［放送］［天気予報］［電報］［アナウンサー］［新聞社］

22 記す・表す（表記）

四：［N_1がN_2にN_3を書く］［N_1がN_2を撮る］［N_1がN_2をコピーする］［ノート］［漢字］［片仮名］［平仮名］［紙］［手紙］［葉書］［封筒］［鉛筆］［万年筆］［ペン］［ボールペン］［机］［地図］［意味］［文章］［テープ］［テレビ］［カメラ］［写真］［フィルム］［映画］［映画館］［絵］

三：［Ｎ$_1$がＮ$_2$を撮る］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を写す・映す］［レポート］［歴史］［日記］［ワープロ］［字］［返事］［掏り］［漫画］［文学］［小説］［鏡］［スクリーン］

23 構える・向く（姿勢）

四：［向こう］［先］［前］［後］［後ろ］［上］［下］［左］［右］［東］［南］［西］［北］［～側］［縦］［横］［方］

三：［Ｎ$_1$がＮ$_2$に向かう］［Ｎ$_1$が逃げる］［表］［裏］［西洋］

24 立つ・居る（起居）

四：［Ｎ$_1$が立つ］［Ｎ$_1$にＮ$_2$がいる］［Ｎ$_1$がＮ$_2$に座る］［Ｎ$_1$がＮ$_2$に住む］［椅子］［部屋］［家］［アパート］

三：［Ｎ$_1$が踊る］［Ｎ$_1$が立てる］［Ｎ$_1$がおる］［Ｎ$_1$がいらっしゃる］［席］［踊り］［研究室］［お宅］［住所］

25 歩く・走る（歩行）

四：［Ｎ$_1$がＮ$_2$を歩く］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を散歩する］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を走る］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を泳ぐ］［川］［海］［プール］［池］

三：［水泳］［湖］

26 通る（通行）

四：［Ｎ$_1$がＮ$_2$を渡る］［玄関］［地下鉄］［橋］［道］［門］［交差点］［廊下］

三：［Ｎ$_1$がＮ$_2$を通る］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を過ぎる］［通り］［交通］［線］

27 行く・来る（往来）

四：［Ｎ$_1$がＮ$_2$に行く］［Ｎ$_1$がＮ$_2$に出掛ける］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を旅行する］［Ｎ$_1$がＮ$_2$から/よりＮ$_3$に/へ/まで旅行する］［Ｎ$_1$がＮ$_2$に来る］［Ｎ$_1$がＮ$_2$に帰る］

三：［N_1がN_2においでになる］［N_1がN_2に参る］［N_1がN_2を連れる］［N_1がN_2を訪ねる］［N_1がN_2に通う］［N_1がN_2に戻る］［N_1がN_2を出発する］［帰り］

28 会う・交わる（交流）

四：［N_1がN_2にと会う］［N_1がN_2を待つ］［N_1がN_2と結婚する］［じゃあ］［友達］［奥さん］［家内］

三：［N_1が集まる］［N_1がN_2を乗り換える］［N_1がN_2を迎える］［N_1がN_2を送る］［N_1がN_2と別れる］［会議］［会］［講堂］［会場］［ちゃん］［夫］［主人］［ご主人］［妻］［家内］［招待］［客］

29 ふるまう（態度・挙動）

四：［ああ］［ええ］［はい］

三：［N_1 が自由だ」［運動］［格好・恰好］［あ］「うん」

30 やさしい・むごい（気質・態度）

三：［N_1が優しい］［N_1が柔らかい・軟らかい］［N_1が酷い］［N_1が親切だ］［N_1がソフトだ］［N_1が真面目だ］［N_1が安心だ］

31 急ぐ・勇む（性急・多忙）

四：［N_1が忙しい］［N_1が丈夫だ〕

三：［N_1がN_2を急ぐ］

32 遊ぶ（遊戯・休息）

四：［N_1がN_2で遊ぶ］［公園］

三：［遊び］［玩具］［昼休み］

33 いばる（傲慢）

三：［N 1 が厳しい］

34 敬う（尊敬・信心）

四：［N 1 が N 2 に大切だ］

三：［N 1 が N 2 を祈る］［N 1 が N 2 を褒める］［N 1 が丁寧だ］［N 1 が大事だ］［お祭り］［神社］［寺］［教会］

35 頼む（依頼・強制）

四：［N 1 が N 2 に N 3 を頼む］［N 1 が N 2 に N 3 を下さい］［どうぞ］

三：［N 1 が無理だ］［案内］

36 だます（詐欺）

三：三級［嘘］

37 争う（闘争・勝負）

三：［N 1 が負ける］［N 1 が N 2 に勝つ］［喧嘩］［柔道］［競争］［試合］「戦争」［テニス］［テニスコート］

38 攻める（攻守）

39 責める（叱責・脅迫）

三：［N 1 が N 2 を叱る］［注意］

40 構う（配慮）

三：［N 1 が N 2 を構う］［N 1 が N 2 を世話する］［N 1 が N 2 を御馳走する］［N 1 が N 2 を手伝う］［お見舞い］

41 従順・反抗

四：［N 1 が N 2 に答える］［結構だ］［いいえ］［けれども］

三：［N 1 が N 2 に謝る］［N 1 が N 2 に反対する］［法律］［答え］

［失礼］［全然］［ちっとも］［そんなに］［しかし］

42 与える（授受）

四：［N_1がN_2にN_3を渡す］［N_1がN_2にN_3を売る］［N_1がN_2にN_3を買う］［N_1がN_2にN_3を貸す］［N_1がN_2にN_3を借りる］［N_1が大丈夫だ］［お金］［デパート］［店］［八百屋］［買い物］［銀行］

三：［N_1がN_2にN_3をやる］［N_1がN_2にN_3をあげる］［N_1がN_2にN_3を差し上げる］［N_1がN_2にN_3をもらう］［N_1がN_2にN_3をいただく］［N_1がN_2にN_3をくれる］［N_1がN_2にN_3を下さる］［N_1がN_2を受ける］［N_1がN_2にN_3を払う］［ガソリンスタンド］［プレゼント］［贈物］［お礼］［お土産］「品物」［受け付け］［輸出］［売り場］［スーパー］［食料品］［輸入］［値段］

43 する・なる（行為・成否）

四：［N_1がN_2をする］［ N_1がN_2をやる］［N_1が働く］［N_1がN_2に勤める］［N_1がN_2になる］［仕事］［会社］［パーティー］［大使館］

三：［N_1がN_2を致す］［N_1がN_2をなさる］［N_1がN_2を行う］［機会］［都合］［アルバイト］「パートタイム」［用事］［用］［店員］［失敗］［式］［コンサート］［公務員］［事務所］［大使館］［貿易］［経済］［社長］［やっと］［～など］「しかた」「読み方」

44 携わる（従事・努力）

四：［～屋］

三：［N_1が頑張る］［N_1が熱心だ］［N_1がN_2に一生懸命だ］［専門］［産業］［工業］［なるべく］［できるだけ］［用意］［出席］［入学］［準備］［支度・仕度］

45 探す・ねらう（探索・追求）

三：［N_1がN_2を探す・捜す］［N_1がN_2を尋ねる］「ため」

46 得る（獲得）

四：［警官］［お巡りさん］

三：［N_1がN_2をもらう］［N_1がN_2を捕まえる］［N_1がN_2を釣る］［N_1がN_2を拾う］［N_1がN_2を盗む］［警察］［泥棒・泥坊］［掏り］

47 やめる（中止・休止）

四：［N_1がN_2を休む］［N_1が暇だ］［ボタン］［夏休み］［休み］

三：［N_1がN_2を止める］［N_1がN_2を中止する］［N_1がN_2を卒業する］［N_1がN_2を遠慮する］［N_1がN_2を邪魔する］［N_1がN_2を止める・留める］［N_1が駄目だ］［駐車場］

48 止まる（停止・停滞）

四：［N_1がN_2に止まる］［ホテル］［駅］

三：［N_1が泊まる］［港］［下宿］［旅館］

49 動く・動かす（運動）

四：［Nが開く］［NがNを開ける］［Nが閉まる］［NがNを閉める］［NがNを飛ぶ］［Nが曲がる］［スポーツ］［ドア］［戸］［窓］［鍵］［車］［鳥］［飛行機］［空］

三：［N_1が動く］［N_1が進む］［N_1が閉まる］［N_1がN_2を閉める］［N_1が回る］［N_1が滑る］［カーテン］［機械］［小鳥］［空港］［空気］［血］［水道］

50 倒す・倒れる（転倒）

三：［N_1が倒れる］［坂］

51 振る・振れる（振動）

三：[N_1が揺れる][地震]

52 つかむ（動作）

四：[N_1がN_2を押す][N_1がN_2を引く][手][足]

三：[N_1がN_2を打つ][N_1がN_2にN_3投げる][N_1がN_2を踏む][指]:[箸]

53 持つ・になう（支持）

四：[N_1がN_2を持つ][鞄]

三：[N_1がN_2を立てる][スーツケース][背中]

54 使う・操る（利用・操作）

四：[N_1がN_2を使う][N_1が便利だ]

三：[N_1が役に立つ][N_1が間に合う][N_1が不便だ][利用][運転][道具][運転手]

55 及ぶ・届く（到着）

四：[N_1がN_2に着く][N_1がN_2にし/を登る][山]

三：[N_1がN_2にN_3を伝える]

56 入れる・入る（入）

四：[N_1がN_2にN_3を入れる][N_1がN_2に入る][トイレ][中][内]〔入り口][ポケット][箱][財布][本棚][花瓶]

三：[N_1がN_2を片づける][N_1がN_2を漬ける][N_1がN_2を包む][N_1がN_2にN_3をさす]「内」[押し入れ]「引き出し 1」[注射][一杯]

57 出る・出す（出）

四：［Ｎ１がＮ２に出る］［Ｎ１がＮ２にＮ３を出す］［外］［出口］［お手洗い］

三：［Ｎ１がＮ２を引き出す］［退院］

58 当たる・触る（接触）

三：［Ｎ１がＮ２に触る］

59 付く（付着・装着）

四：［Ｎ１がＮ２にＮ３を付ける］［Ｎ１にＮ２が付く］［Ｎ１がＮ２にＮ３を張る］［Ｎ１がＮ２を着る］［Ｎ１がＮ２を被る］［Ｎ１がＮ２を穿く］［Ｎ１がＮ２を浴びる］［ネクタイ］［切手］［電気］［帽子］［服］［洋服〕［背広］［ワイシャツ］［コート］［上着］［シャツ］［セーター］［ズボン］［スカート］［靴］［靴下］［スリッパ］［お風呂］［風呂］［シャワー］

三：［Ｎ１がＮ２を塗る］［糊］［着物］［レーンコート］［スーツ］［下着］［手袋］［サンダル］

60 取る・抜く（除去）

四：［Ｎ１がＮ２を取る］［Ｎ１がＮ２を磨く］［Ｎ１がＮ２を掃除する］［Ｎ１がＮ２を脱ぐ］［ハンカチ］［歯］［灰皿］

三：［Ｎ１がＮ２にＮ３を捨てる］［芥］

61 取れる・抜ける（脱落）

62 移す（移動）

四：［Ｎ１がＮ２をＮ３に上げる］［Ｎ１がＮ２に上がる］［Ｎ１がＮ２を降りる］［Ｎ１がＮ２にＮ３を返す］［エレベーター］［階段］［段々］［階］［郵便局］［ポスト］

三：［Ｎ１がＮ２を運ぶ］［Ｎ１が移る］［Ｎ１がＮ２へ引っ越す］［Ｎ１が上がる］［Ｎ１がＮ２を下げる］［Ｎ１がＮ２に下がる］［Ｎ１

がＮ$_2$を下りる］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を落とす］［Ｎ$_1$が落ちる］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を送る］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を届ける］［荷物］［エスカレーター］［お釣り］

63 置く（設置・満載）

四：［Ｎ$_1$がＮ$_2$にＮ$_3$を置く］［Ｎ$_1$がＮ$_2$にＮ$_3$を掛ける］［Ｎ1 にＮ2 が掛かる］［Ｎ$_1$がＮ$_2$に乗る］［車］［自転車］［自動車］［電車］［タクシー］［バス］［切符］［荷物］

三：［Ｎ$_1$がＮ$_2$にＮ$_3$を植える］［棚］［畳み］［乗り物］［オートバイ］「汽車」［船］［特急］［急行］

64 まとめる（統合・整理）

四：［Ｎ$_1$がＮ$_2$にＮ$_3$を並べる］［Ｎ$_1$にＮ$_2$が並ぶ］［それから］［そして］［そうして］［等］［交番］［一緒］［町］［村］

三：［Ｎ$_1$がＮ$_2$を足す］［Ｎ$_1$が集まる］［Ｎ$_1$がＮ$_2$を集める］［Ｎ$_1$がＮ$_2$にＮ$_3$を飾る］［Ｎ$_1$がＮ$_2$でＮ$_3$を飾る］［具合］［それに］［すると］［課長］［部長］［アクセサリー］［指輪］

65 分ける（分割・区画）

四：［クラス］［半分］［月曜日］［火曜日］［水曜日］［木曜日］［金曜日］［土曜日］［日曜日］［午前］［午後］［一日］［二日］［三日］［四日］［五日］［六日］［七日］［八日］［九日］［十日］［二十日］［週間］［日］［月］［年］［カレンダー］［一月］ [6]

三：［途中］［タイプ］［カレンダー］［壁］［島］［県］［都］［市］［区］［町］［正月］［日］

66 乱れる（乱雑・狂騒）

三：［Ｎ$_1$が騒ぐ］［Ｎ$_1$が沸く］［Ｎ$_1$が込む］［Ｎ$_1$が変だ］［Ｎ$_1$が複雑だ］

[6] 英語と違って「二月」以降は合成語として考えられる。

67 なおす（修正・統治）

四：［薬］［医者］［病院］

三：［N_1がN_2を直す・治す］［N_1が直る・治る］［入院］［歯医者］［看護婦］［政治］

68 作る（生産）

四：［N_1がN_2を作る］［料理］［作文］［台所］［建物］

三：［N_1が開く］［N_1がN_2を建てる］［N_1がN_2を焼く］［N_1が焼ける］［N_1がN_2を沸かす］［生産］［工場］［製］［文化］［ビル］［市民］「番組」［木綿］［絹］［毛］［糸］

69 壊す（破壊）

三：［N_1がN_2を壊す］［N_1が壊れる］［N_1が割れる］［N_1にN_2が欠ける］［故障］［怪我］[7]

70 切る・切れる（切断）

四：［N_1がN_2を切る］

三：［床屋］

71 ゆがむ（変形）

四：［N_1が丸い］［真っ直ぐ］［角］

三：［N_1が折れる］[8]［N_1がN_2を折る］［N_1がN_2を曲がる］［隅］

72 変える（変化一般）

三：［N_1がN_2をN_3に変える］［N_1がN_2に変わる］

---

[7] これらの単語は動詞にも使われる。

[8] ［折る］は［N_1がN_2をN_3に折る］、［折れる］は［N_1がN_2に折れる］、［曲がる］は［N_1がN_2をN_3に曲がる］というように、［Nに］のニ格を取ることができる。

73 強い・弱い（強弱）

四：[N$_1$が強い][N$_1$が弱い]

三：[N$_1$が凄い]　[力]

74 かたい（硬軟）

四：[N$_1$がN$_2$を締める]

三：[N$_1$が固い・堅い・硬い]　[石]　[砂]

75 大きい（大）

四：[N$_1$が大きい][N$_1$が太い][N$_1$が厚い][N$_1$が広い][大きな]

三：[N$_1$が太る・肥る]　[国際]

76 小さい（小）

四：[N$_1$が小さい][N$_1$が細い][N$_1$が狭い][小さな]

三：[N$_1$が痩せる]　[N$_1$が細かい]

77 長い（長短）

四：[N$_1$が長い][N$_1$が短い]

78 高い（高低）

四：[N$_1$が高い][N$_1$が低い][N$_1$が安い][背]

三：[N$_1$が深い]　[N$_1$が浅い]　[屋上]

79 多い（多数・多量）

四：[N$_1$が多い][N$_1$が重い][大勢][とても][もっと][沢山][は]

三：「N$_1$がN$_2$に増える」[N$_1$が十分だ][N$_1$が盛んだ][いくら～ても][オーバー][非常に][随分][ずっと]　[中々][大分]　[以上]　[金持ち]「お金持ち」

80 少ない（少数・少量）

四：[N$_1$が少ない] [N$_1$が薄い] [N$_1$が軽い] [少し] [ちょっと] [ときどき]

三：[N$_1$が空く] [N$_1$が珍しい] [偶に] [以下] [以内]

81 近い・遠い（遠近）

四：[N$_1$が近い] [N$_1$が遠い] [近く] [兄弟] [隣] [辺] [側]

三：[N$_1$がN$_2$に寄る] [そろそろ] [この間] [さっき] [近所] 「周り」 [郊外] [海岸] [今度] [この頃] [最近] [遠く] [間]

82 清い・汚い（清濁）

四：[N$_1$が綺麗だ・奇麗だ] [N$_1$が汚い] [N$_1$がN$_2$を洗う] [N$_1$がN$_2$を洗濯する] [石鹸]

三：[N$_1$が済む] [N$_1$が汚れる] [N$_1$が美しい] [ガラス]

83 染める（染色・色彩）

四：[N$_1$が赤い] [N$_1$が白い] [N$_1$が黄色い] [N$_1$が青い] [N$_1$が黒い] [色] [赤] [黄色] [茶色] [青] [緑] [白] [黒]

84 かわく（乾湿）

三：[N$_1$が乾く] [N$_1$が濡れる]

85 暖まる（湿度）

四：[N$_1$が暖かい] [N$_1$が温い] [N$_1$が熱い] [N$_1$が冷たい] [N$_1$が暑い] [N$_1$が涼しい] [N$_1$が寒い] [春] [夏] [秋] [冬] [ストーブ]

三：[N$_1$が冷える] [暖房] [冷房] [熱]

86 燃える（燃焼）

四：[マッチ]

三：[N_1が焼ける] [N_1がN_2を焼く] [火] [ガソリン] [ガス] [火事] [電灯]

87 光る・鳴る（自然）

四：[N_1が晴れる] [N_1が曇る] [N_1が降る] [N_1が吹く] [N_1がN_2を弾く] [N_1が明るい] [N_1が暗い] [昼] [晴れ] [天気] [曇り] [雨] [雪] [傘] [風] [ギター]

三：[N_1が光る] [N_1が止む] [N_1が鳴る] 「台風」「月」「太陽」 [光] [星] [昼間] [雲] [ベル] [ピアノ]

88 古い・新しい（新古・老若）

四：[N_1が古い] [N_1が新しい] [N_1が若い] [今] [今日] [今朝] [今晩] [今週] [今月] [今年]

三：[昔] [今夜]

89 はやい（時間）

四：[N_1が速い] [N_1が早い] [N_1が遅い] [すぐ] [すぐに] [ゆっくり] [ゆっくりと] [次ぎ] [明日] [明後日] [来週] [来月] [来年] [再来年] [時間] [昨日] [おとい] [先週] [先月] [去年] [おととし] [ゆうべ] [もう] [朝] [夕方] [夜] [晩]

三：[N_1が遅れる・後れる] [N_1が暮れる] [急] 「急に」 [もうすぐ] [先ず] [先輩] [これから] [将来] [明日] [再来月] [再来週] [久し振り] [しばらく] [季節] [時代]

90 始まる・続く・終わる（開始・終了）

四：[N_1が始まる] [N_1が終わる] [毎朝] [毎晩] [毎日] [毎週] [毎月] [毎年] [まだ] [冷蔵庫] [まだ] [初めて]

三：[N_1が続く] [N_1がN_2を始める] [N_1がN_2を仕舞う] [N

1がN2を続ける］［最初］［終わり］［最後］［ずっと］［一度］［どんどん］

91 基づく（関係）

四：［N_1にN_2が要る］

三：［～によると］［原因］［訳］［理由］［おかげ］［だから］［それで］［関係］［ついて］［N_1がN_2に必要だ］

92 合う（適合）

四：［ちょうど］

三：［N_1が合う］［N_1がN_2に慣れる］［N_1がN_2に似る］［N_1が適当だ］［習慣］［人形］

93 異なる（異同）

四：［N_1がN_2と違う］［N_1がN_2と同じだ］［外国］［外国人］［ほか］［また］［色々］

三：［N_1がN_2を取り換える］［N_1が特別だ］［別］［以外］［特に］［代わり］［代わりに］［翻訳］

94 良い（善）

四：［N_1がいい・よい］［N_1が面白い］［N_1が立派だ］［N_1が上手だ］［一番］［本当に］

三：［N_1が宜しい］［N_1が素晴らしい］［N_1が正しい］［興味］

95 悪い（悪）

四：［N_1が悪い］［N_1がつまらない］［N_1が危ない］［N_1が下手だ］［風邪］

三：［N_1が危険だ］

96 ある（存在・含有）

四：[N_1にN_2がある] [いつも] [よく] [ちゅう] [余り]

三：[N_1が足りる] [N_1にN_2が残る] [N_1にN_2がござる] [場所] [普通] [大体] [ほとんど] [大抵]

97 現れる（出現・生起）

三：[N_1がN_2を起こす] [事故]

98 ない（不在・消滅）

四：[N_1にN_2がない] [N_1が消える] [N_1がN_2をなくす] [N_1がN_2を消す]

三：[N_1が無くなる] [留守] [消しゴム]

99 其の他

四：[この] [その] [あの] [どの] [こんな] [どんな] [これ] [それ] [あれ] [どれ] [なに] [こちら/こっち] [そちら/そっち] [あちら/あっち] [どちら/どっち] [ここ] [そこ] [あそこ] [どこ] [いつ] [何] [誰] [誰か] [どなた] [わたくし] [わたし] [自分] [あなた] [皆さん] [みんな] [人] [～人(じん)] [～方(かた)] [～達] [もの] [体] [ところ] [とき] [～ころ] [～ごろ] [一人] [二人] [一日] [全部]

三：[それほど] 「そんな」 [あんな] 「こう」 「そう」 「ああ」 [腕] [私] [僕] [君] [皆] [彼] [彼女] [彼等] 「～様(さま)」 [事] [地理] [形] [首] [喉] [アジア] [アフリカ] [アメリカ] [真ん中] [場合] [両方] [すっかり]

４．結語

小稿では『類語大辞典を』を参考に、日本語教育上もっとも基礎的な三・四語彙表のシソーラス作成について考察をしてきた。結論的に言えば、動詞の意味カテゴリーの見分け方、

見出し語の選択、品詞の決定など様々の問題を抱えているので、『分類語彙表』に関する従来の研究成果を基に、それを改良することが望ましい。とはいえ、必須成分である名詞が用言にかかるという従来の基本文型を中心とした記述は決して珍しいものではないが、必須成分にとどまらず、形容動詞・名詞・副詞ないしその他の品詞などをも全面的に取り入れた随意成分が動詞か形容詞かのいずれかにかかるというカテゴリーの作り方には他書にない独特の特徴が見られる。小稿が何らかの意味において、日本語の文型教育ないし語彙教育に寄与することができるなら、それは何よりも幸甚である。

参考文献

[IKE 97]池田悟・宮崎正弘・白井諭・横尾昭男・中岩浩巳・小倉健太郎・大山芳史・林良彦（1997）『日本語語彙大系全5巻』岩波書店

[JOH 87]情報処理振興事業協会（1987）『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL（Basic Verbs）辞書編と解説編』

[JOH 90]情報処理振興事業協会（1990）『計算機日本語原形容詞辞書 IPAL(Basic Adjectives)辞書編と解説編』

[KOK 64]国立国語研究所編（1964）『分類語彙表』秀英出版社

[KOK 04]国立国語研究所編（2004）『分類語彙表―増補改訂版』

[KOU 02]国際交流基金（2002）『日本語能力出題基準―改訂版』凡人社

[SHI 02]柴田武・山田進編（2002）『類語大辞典』講談社

[TAJ 99]田島毓堂（1999）『比較語彙研究序説』笠間書院

[TIO 04]趙順文（2004）「『新明解国語辞典第五版』に出る動詞の基本文型の記述について」『日本語教育国際シンポジウム論文予稿集』日本・日本語教育学会

（2004-0806～0807）

付記：小稿は国際シンポジウム比較語彙研究Ⅷ・語彙研究セミナーⅤに提出した論文「４級語彙表シソーラス」を大幅に修正し、かつ改題したものである。